

石見銀山遺跡調査ノート 2

Iwami-Ginzan Silver Mine Site Reserch Note Mar. 2003 No.2



平成14年度版

2003.3

島根県教育委員会
大田市教育委員会
温泉津町教育委員会
仁摩町教育委員会





口絵 1 カラミ煉瓦製の水槽跡



口絵 2 竹田地区 I 区方形炉跡



口絵 3 竹田地区 V 区発掘調査状況



口絵4 宮の前地区発掘調査近景



口絵5 同地区検出の各種製錬炉跡



口絵 6 重要文化財旧熊谷家住宅保存修理工事



口絵 7 重要文化財旧熊谷家
保存修理現場風景



(大正5年撮影)



口絵 8 仁摩町柑子谷・旧鉦夫住宅調査風景



口絵 9 温泉津町西田・瑞泉寺山門全景



口絵11 年未詳9月晦日 高野了喜書状



同上紙背文書



口絵12 長楽寺跡の石造物調査



口絵13 異形の墓標

凡例

1. 本書は島根県・大田市・温泉津町・仁摩町教育委員会が実施する石見銀山遺跡の諸調査に関わる事業の概要を中心にまとめたものである。
2. 内容は平成14年（2002）度に行った調査事業の概要を記した年次報告と、調査に携わった関係者の資料紹介・小レポートからなる調査ノートの2部構成で、併せて関連する情報を加えた。
3. 詳しい調査の内容は、各調査ごとに刊行する報告書を参考するなり、調査主体者に問い合わせいただきたい。
4. 本書の編集は、島根県教育庁文化財課世界遺産登録推進室で行った。これら諸調査に際して御協力いただいた関係各位にお礼申し上げますとともに、本書が今後の石見銀山の調査研究や整備活用のための基礎的な情報として活用いただければ幸いである。

目次

口 絵解説	i
I 石見銀山遺跡総合調査の概要	1
1. 発掘調査の概要	1
2. 歴史文献調査の概要	2
3. 街道調査の概要	4
4. 石造物調査及び関連事業の概要	7
5. 科学調査及び関連事業の概要	8
6. 間歩調査の概要	10
II 石見銀山遺跡関連事業の概要	10
1. 宮の前地区発掘調査（受託調査）	10
2. 町並み保存地区の保存修理・整備活用事業	10
3. 情報発信・整備活用事業（島根県関係）	12
4. 情報発信事業（大田市外2町広域行政組合）	13
5. その他の情報発信事業	14
III 資料紹介・小レポート	
1. 江戸時代初期の2通の書状について	和田美幸.....15
2. 石見銀山遺跡出土の木製品と保存処理	遠藤浩巳.....18
3. 温泉津町西田地区採集の蹄鉄について	鳥谷芳雄.....23
IV 報告書・出版物情報（2002 4～2003 3補遺）	27
V 平成14年度石見銀山遺跡調査等関係者	33
VI 平成14年度石見銀山遺跡調査箇所位置図	38
VII 平成14年度サイン整備事業設置箇所位置図	40

口絵解説

口絵 1 カラミ煉瓦製の水槽跡（仁摩町大国町柑子谷）

今年度の遺跡詳細分布調査で新たに確認されたカラミ煉瓦製の水槽跡である。藤田組操業時代の製錬関連施設とみられ、縦4 m、横5～6 m、高さ1.5 mの規模がある。

口絵 2 竹田地区Ⅰ区方形炉跡

切り合いながら3基連続する方形炉跡で、いずれも精錬炉跡とみられる。時期は16世紀末以前と推定され、構造や切り合い関係を調べるため、断面観察を行うとともに土資料の科学的分析や遺構の剥ぎ取りを行った。

口絵 3 竹田地区Ⅴ区発掘調査状況

今年度の竹田地区の調査のうちⅤ区のトレンチ調査では、従来よく見られた製錬炉跡の遺構やそれに伴う遺物などが全く検出されず、周囲と同じ平坦面が形成されながらところによっては遺構のない空間が存在することが分かった。

口絵 4 宮の前地区発掘調査近景

今年度の調査で検出された銀精錬工房の建物跡である。4 m×6 mの規模の礎石建物で内部に炉跡をもつ。時期は16世紀末から17世紀初頭と推定される。

口絵 5 宮の前地区検出の各種炉跡

工房建物内からは20基の炉跡を検出している。平面形、規模、炉内埋土、粘土貼りの有無、下部構造などによっていくつかに分類される。

口絵 6 重要文化財旧熊谷家住宅保存修理工事

素屋根で覆われた主屋である。解体中に寸法調査、痕跡や手法の調査、材料や意匠などを調べる仕様調査などが行われた。これらの調査によって町並み大火（1800）後の再建時の様子や、その後の変遷が明らかになった。解体に伴って台所や土蔵などの遺構確認調査も行った。

口絵 7 重要文化財旧熊谷家保存修理現場風景

井戸神社境内から撮影した。素屋根（仮設の屋根）で主屋や土蔵を棟別に覆って保存修理工事を進めている。屋根や外周を覆うネットを茶褐色にして町並みの景観に配慮した。平成17年度に竣工予定。

右下の古写真は、大正5年（1916）4月25日に行われた井戸神社社殿改築奉告祭を撮影したものの。背景に熊谷家住宅（写真中央）が写り、土蔵、主屋背面（台所、蔵前屋敷）離れの屋根形状が判る。主屋背面に取り付く台所は棟芯をずらした3連の切妻屋根が写り、台所拡張の変遷がわかり貴重である。

口絵 8 仁摩町柑子谷・旧鉱夫住宅

銀山柵内の吉迫口から柑子谷に降り下ったところにある。石見銀山は大正12年（1923）に閉山したが、昭和12年に再興が計画され試験掘りを行うためにこの鉱夫長屋が建てられたとされる。現存

する建物は4戸1棟の平面で、1戸は畳部屋二間に玄関のみの素朴な間取りとなっている。

口絵9 温泉津町西田・瑞泉寺山門

銀山街道の沖泊・温泉津ルートが通る西田地区集落の一角にある三明山瑞泉寺。山門は入母屋造、瓦葺、三間三戸（両脇の門は欠失）。禅宗様の美しい楼門で、もとは茅葺であった。建立年代は山門梁木銘から寛延4年（1751）と推定される。

口絵10 年未詳9月26日 大久保長安書状、および同紙背文書

解説・読み下し文は、本文Ⅲ - 1の和田美幸の史料紹介を参照のこと。

口絵11 年未詳9月晦日 高野了喜書状、および同紙背文書

解説・読み下し文は、口絵11の注に同じ。

口絵12 長楽寺跡の石造物調査

長楽寺は明治年間まで昆布山谷にあった真言宗寺院で、その跡はいまも境内地の様子をよく伝えている。今年度の石造物調査ではこの周辺で213点の石造物を確認した。写真は歴代住職の墓石のある地点で、無縫塔をはじめ組合せ宝篋印塔、一石五輪塔など比較的古い石造物が集中してみられ、中には文禄3年（1594）の紀年銘のものがあった。

口絵13 異形の墓標

今年度の悉皆調査地点で、近世墓標の多い石造物中に認められた異形の墓標。一辺35cmの台座に高さ15cm、幅15cm、奥行12cmの角錐状の突起が一体で作り出され、その正面には十字架状の刻みが彫り込まれている。石材は地元産のやや硬質な石とみられ、突起部は別の材で覆い被せてあった形跡が認められた。

I 石見銀山遺跡総合調査の概要

1. 発掘調査の概要

(1) 竹田地区の発掘調査(第4年次)

継続してI区下層第4面の方形炉跡周辺の精査を行うとともに、地区全体の様相を把握することを目的に、新たにIV・V区の調査区を設定して調査した。方形炉跡は3基の炉跡が切り合い関係にあり、半裁して構造を調べるとともに、土壌を科学的分析に供した。炉跡周辺には柱穴が数穴確認されたほか、炭化物層からは銭貨、貝殻片、板状の鉄製品が出土した。板状鉄製品は鉄鍋炉の破片の可能性はある。

IV区はI区から100メートルほどの距離を置く東側の一段高い平坦地で、幅2メートル、長20メートルのトレンチを設定して調査を行った。第1遺構面の年代は16世紀末～17世紀初頭であり、中央では小規模な整地の繰り返しによって製錬遺構が次々と構築された状況がうかがえた。上部を失っているものの、鉄の容器状遺物が出土し、鉄鍋炉の可能性はある。V区はIV区からさらに50メートルほど東側にある平坦地群で、2メートルのトレンチを5ヶ所設定して調査した。その結果、造成された形跡は認められるものの、製錬遺構や建物跡などが検出されず、建物等のない地区として把握された。出土遺物は、16世紀後半～17世紀初頭のものが中心であり、最も新しい時期では表土中の1660年～1680年代のものがある。また、10世紀前後とみられる須恵器片が表土中から数点出土した。

(2) 於紅ヶ谷地区の発掘調査(第5年次)

昨年度検出した岩盤加工遺構周辺の精査を行った。岩盤加工遺構は、16世紀の第4四半世紀頃に掘削された段状の遺構と確認された。この地区は今年度で調査を終了し埋め戻すことになったが、周辺地形も含めた調査区全体の空間構成を把握するため、レーザー光線による三次元計測も併せて行った。

(3) 出土谷地区の発掘調査(第4年次)

敷地・建物跡内部の遺構配置を明らかにするため、精査を行った。入り口付近とみられる水路および道に近い部分で、建物端部のものとみられる石列を確認し、建物の空間利用を推定する資料が得られた。

(4) その他の発掘調査

- ・宮の前地区発掘調査(県道仁摩瑞穂線改良工事に伴う)

最終となる第4年次の調査を実施。調査対象地区は4区で、調査面積は180m²。

- ・本谷地区確認調査(本谷地区遊歩道都市公園整備事業に伴う)

調査期間は6月21日～7月12日、調査面積は30m²。大久保間歩向かいと、金生坑間歩前の2つの平坦地で調査を行った。

- ・旧熊谷家住宅発掘調査（重要文化財旧熊谷家住宅保存修理事業に伴う）
調査期間は①4月8日～5月2日、②7月15日～10月4日、③12月10日～2月28日。調査は主屋を中心に「東道具蔵」「北道具蔵」「地下蔵」「衣装蔵」の地下遺構について確認調査を行った。
- ・旧阿部家住宅発掘調査（県指定史跡旧阿部家住宅保存修理事業に伴う）
調査期間は①4月1日～4月24日、②7月18日～8月8日、調査面積は50m²。地区遺構の存否及び残存状況の確認調査を行った。

2. 歴史文献調査の概要

(1) 石見銀山歴史文献調査団の動向

〔文書調査〕

- ・阿部家文書（鳥取県米子市）

実施日：5月27日～5月30日

概要：江戸時代に大森町に住み、地役人を勤めた家である。阿部家の保存修理のため大田市の担当者が阿部氏と連絡を取った際に、総数400余点の古文書の存在が判明した。この文書には、親戚である地役人宗岡氏の文書が含まれており、その中から大久保長安の書状が10点発見できた。これ以前に存在が知られていた阿部家文書の一部は石見銀山資料館に寄託されている。

- ・上野利治家文書（島根県大田市大森町）

実施日：5月16日、11月5日、2月10日

概要：上野家（下博多屋）は、近世から近代にかけて鉱山経営に関わった家である。近代については藤田組時代のものがほとんどであり、坑道図面、地籍図などの図面が220余点、経理、鉱業権などに関する書類綴りが約70点存在している。目録作成は終了し、撮影と内容の調査を継続中。記録には35mmフィルムでの撮影にあわせて、デジタルカメラでの撮影も行っている。

- ・熊谷家文書（島根県大田市大森町）

実施日：9月19日～9月22日、3月13日～3月15日

概要：熊谷家の業務に関する文書のほか、銀山領内の代官所訴訟関係文書がまとまって多数存在する。調査は前年度から継続しており、調査カード、目録作成を行っている。

- ・小割家文書（大阪府富田林市）

実施日：7月28日

概要：江戸時代には大森に住んだ、銀吹師・銀山町役人の家である。「銀吹師」の史料調査は調査団としてはこれが初めてである。全体量の把握と、帳簿8冊のマイクロカメラによる撮影が終了しており、来年度中に続きを行う予定である。当時の銀吹きシステムを解明する史料が含まれている。

・勝源寺文書（島根県大田市大森町）

実施日：12月17日

概要：大田市による勝源寺関連の調査に同行した。土蔵をはじめて開けたとのことで、勝源寺文書の全体量と概略を把握するための予備調査を行った。

・浄土寺文書（島根県邑智町粕淵）

実施日：8月21日～8月26日、12月20日～25日

概要：寺伝によると、本寺は在地領主佐和氏の請いにより徳治元年（1306）に開山されたという。本寺は山陰における浄土真宗発祥の寺院として、石見・出雲に教線を張り、江戸中期においては直末寺院52ヶ寺、その配下を含めると290余寺を支配しており、銀山周辺地域では有力寺院の1つである。

調査により、銀山周辺、大田町周辺、三瓶山の周囲に浄土寺の末寺が広がり、門徒が多数存在したことがわかった。銀山役人の中に、浄土寺と姻戚関係にある者があることも確認できた。また、過去帳に小原町（現邑智町）に居住し「はいふき屋」の屋号を持つ門徒が記載されていたことも注目される。関連資料によれば、この家は近世初期に銀山から移住してきたとされるが、なぜこの地に灰吹屋が必要であったかはさらに検討する必要がある。

調査では、過去帳をデジタルカメラで撮影し、CD-Rで保存している。

史料調査に加えて、地元の郷土史家の方のご協力を得て、佐波氏の遺跡の踏査も行った。その勢力範囲には、銅ヶ丸鉱山や多数の砂鉄採取地があり、佐波氏の勢力拡大にそれらが重要な役割を果たしたと考えられる。石見銀山の開発には、そこで活動した者が関わった可能性が無視できず、そうした視点からも邑智町域はさらに注目する必要があると思われる。

・中村久左衛門家文書（島根県桜江町大貫）

実施日：8月21日～8月26日、9月29日～10月2日、3月12日

概要：中村家は屋号「西田屋」を称することから、温泉津町西田に在ったことが窺われる。同家および濱原村の分家は江戸期に鋤を請け負っており、毛利氏に伴い、萩へ移住した一族が同地では「鉄（くろがね）屋」を称していることから、すくなくとも毛利・小笠原の時代より、同家では代々産鉄とその銀山への供給に関わったと考えられる。今回の調査では、その動向を示す史料を主に採集した。

中村家には、前回の調査で採集した史料の他、江戸中期以降の銀山役所の書類と思われる史料が多数所蔵されている。今回の調査では、その一部、江戸中期の「御用留日記」類を中心に採集した。これらによって、当時の銀山領の内情や、諸間歩の産出状況などを把握することができると考えられる。

・満行寺文書（島根県仁摩町天河内）

実施日：6月3日～6月7日、8月21日～8月26日

概要：満行寺は、現在は仁摩町に所在するが、17世紀半ば頃までは、銀山町下河原の「井の奥」に在ったと伝えられる。今回の調査では、同寺に所蔵される16世紀末～17世紀初めの史料を採集し

た。銀山からの産銀故に、本願寺が満行寺を重要視していたことを示す数点の史料を採集することができた。

〔史料・文献調査〕

ポルトガル関係は、ポルトガル国立図書館、トレ・ド・トンボ文書館（リスボン）において、史料調査を行った。モンスーン文書、エヴォラ版イエズス会年報原文書の原史料を調査した。これまでにリスボン新大学のオリベイラ・エ・コスタ教授のチームによって歴史文献調査団宛に送られてきた史料のうち、翻刻の間違いの可能性や、内容記述のあいまいな点を正すべく、重要な史料に就いて再調査をおこなった。そこからは数箇所これまでの報告書内での翻刻・翻訳ミスや前後の文脈からの確認などが取られた。

中国関係は、『明実録類纂』シリーズの福建台湾巻・経済史料巻・渉外関係巻、『中国・朝鮮の史籍における日本史料集成』、『明代倭寇史料』といった日中関係史料集、『福建通志』といった地方誌を調査した。銀の価格、物価に関する史料が多数得られた。

この他、収集済みの各国語の史料についても、翻訳及び内容の調査を継続中である。

〔データベース整備〕

旧システムから新システム「石見銀山歴史資料検索システム」へデータの移行中であり、史料の写真をデジタル化する作業も行っている。データベースの整備は来年度も継続する予定である。

〔刊行物〕

2002年3月に作成した報告書（『石見銀山関係論集』『石見銀山関係歴史年表（改訂版）』『石見銀山関係編年史料綱目』）を増刷し、『石見銀山 研究論文篇、年表・編年史料綱目篇』として思文閣出版より2003年1月に刊行した。

（2）島根県教育委員会の動向

・小林准士編『石見銀山史料解題 銀山旧記』の発行

・各史料調査の実施

3. 街道調査の概要

（1）街道調査の概要

今年度は、鞆ヶ浦ルート、温泉津・沖泊ルートの確定を目指して調査を進めた。

まず、石造物・伝承聞き取り調査・古地図・古絵図・切り図・文献（記録・古文書など）を実施しながら、現地踏査を行い、道路遺構の確認調査を行うこととした。

当初の検討においては、ルートの起点と終点が問題とされたが、銀鉱石・銀の搬出ルートを明確にするということを一義とするという目的から、鞆ヶ浦ルートでは、仙ノ山を起点に畑口経由で鞆ヶ浦までを区間として調査を実施することとした。温泉津・沖泊ルートについては、時期的に銀山

休役所を起点に坂根口・ごうろ坂～西田経由で沖泊まで、のちに温泉津までと考えることとした。

古地図・古絵図・切り図の調査では、対象となる史料は、江戸時代初期の元和国絵図を起点にそれ以降の近世・近代史料に限られた。まず、最初に、県内外に所在する石見国絵図・藩絵図系統の調査を重点的に行った。結果、近世以降も公道として供用された銀山坂根口から温泉津・沖泊に至るルートは比較的把握しやすかったが、銀山畑口から馬路に至るルートは、最古の元和国絵図にみられるのみで他にはみられなかった。しかし、後の国絵図・藩絵図系統の絵図にはルートこそみられないものの、畑口が明記されるものは近世を通じて多く存在していることなどから、これに通じるルートはやはり存在したものと考えた。

また、比較的大まかに記述されている国絵図・藩絵図に対して、近代初頭の切り図には、現在の地理観に照らしてルートを比較検討できる情報が盛り込まれていると考えられることから、一部撮影のうえ検討を加えた。

一方、絵図の調査過程で銀搬出ルートとして認識している温泉津・鞆ヶ浦・尾道の3ルート以外にも小ルートを検討する必要があるのではないかと情報が得られたのも副産物であった。本調査後、後考を期する必要があるだろう。

そのうえで、当該地域の自然地理的条件から通路（街道）が成立しうる場所には限定性があり、従って、近世の通路と銀山開発当初の鞆ヶ浦ルートには一致するところが多いのではないかと考えて現地踏査を行った。

現地踏査は、比較的容易な温泉津・沖泊ルートに対して、鞆ヶ浦ルートは山林の荒廃により困難を極めた。まずは、鞆ヶ浦から高山・城上山の谷間までの遺構を確認した。次に、銀鉱石の運搬にかかる伝承や、銀山山吹城に関連する旧家の存在などを手がかりに、高山・城上山の谷間から東麓の上野や、柑子谷、畑口付近を踏査し諸処に遺構を確認した。また、近代まで大森・馬路間の通路として供用されていたという、高山の西側の願城寺付近、南側の百合（百号）、冠、長登付近も踏査し諸処に道の遺構を確認した。

温泉津・沖泊ルートについては、概ねのルートは把握できるものの、遺構が、現在でも生活空間の中に存在することなどから、実際の遺構確認は切り図の調査・現地踏査を交えながら煩瑣なものにならざるをえなかった。

これに並行して、石造物の調査を実施することによって、街道の痕跡を探ることとし、鞆ヶ浦ルートのうち、馬路高山の東側部分と、温泉津・沖泊ルートの調査を実施した。また、街道とその付近に位置する柑子谷の旧鉱夫住宅、上野の民家、天河内の満行寺、湯里の民家など近世から近代にかけての建造物調査を実施した。

（2）街道調査の動向

・石造物調査（2002.6.10～14）

沖泊・温泉津ルート沿いの石造物について調査カードの作成、実測、拓本、写真撮影。

・温泉津・仁摩踏査（2002.6.11）

・建造物現地調査（浅川滋男鳥取環境大学教授、2002.7.8-9）

沖泊・西田・湯湊・友・馬路・上野・柑子谷・大国・仁万・宅野・温泉津・小浜・大森を現地視察し、調査物件を選定した。

- ・建造物現地調査（浅川滋男氏ほか、2002.8.28～30）
仁摩町大国・旧鉦夫住宅、同・小笠原家住宅、仁摩町天河内・満行寺、温泉津町西田・渡利家住宅、温泉津町沖泊・須谷家住宅の調書作成、実測図作成、写真撮影。
- ・古図・古文書等調査、山口県文書館（2002.7.23～26）
「石州大森地図」、「石見国全図」、「芸雲石古城図」、「中国筋十二ヶ国巡検使御通路図」、「陰徳太平記」、「元就公記」、「御軍記」、「旧事記」、「江就記」、「備芸石遍歴」、「石備芸防覚書」、「阿武郡大井浦三井文右衛門所持御判物写」、「刺賀文書」等の調査。
- ・第1回街道調査検討会（2002.9.5）
街道調査の概要説明、各調査部門の経過報告、および今後の調査課題などの検討。
- ・切図・古文書等調査、広島大学附属図書館（2002.9.12,13）
広島国税局寄贈中国五県土地・租税資料中の切図調査。
- ・仁摩町内古文書・古記録調査（2002.9.18・19・24・26）
中原家文書（大国）、松浦家文書（馬路）、藤間家文書（宅野）、満行寺文書（天河内）の調査。
- ・古絵図・古記録調査、岩国徴古館（2002.10.3,4）
「山陰道八箇国図」、「日本国海陸道程図」、「従芸州新庄至石州湯津辺図」、「吉川家臣覚書」、「森脇飛驒守覚書」、「吉川家記録」、「吉川家御代々御旧記」の調査。
- ・国絵図調査、浜田市教育委員会（2002.10.23）
元和年間石見国絵図、天保年間石見国懸紙改国絵図、銀山周辺図の調査。
- ・第2回調査検討会（2002.10.28）
銀山街道の出発点と終着点についての検討と、鞆ヶ浦ルートについての調査報告ほか。
- ・建造物調査（浅川滋男氏ほか、2002.10.31～11.3）
仁摩町仁万・石見八幡宮社殿、仁摩町大国・小笠原家住宅、温泉津町西田・瑞泉寺、仁摩町馬路友・松浦家住宅の調書作成、実測図作成、写真撮影。
- ・史料調査、浜田市立図書館（2003.1.14）
- ・史料調査、江津市立図書館（2003.1.16）

- ・ 仁摩町現地調査（2003 .1 .18）
- ・ 史料調査、津和野町森鷗外記念館（2003 .1 20 21）
「正保国絵図」、「藩政時代石見国地図」、「石見国細見図」の調査。
- ・ 史料調査、山口県文書館（2003 2 4～7）
「萩藩譜録」と、旧「山口県史」編纂時に島根県下で収集された史料データの調査。
- ・ 史料調査、熊本大学附属図書館（2003 2 26）
永青文庫所蔵の「改正日本道中行程記」、「大日本国郡輿地図路程全図」、「改正日本輿地路程全区 安永4年」、「新製輿地全図」、「国郡全図 文政11年版」、および「北陸道・西海道・山陰道・南海道」のうち山陰道の調査。
- ・ 街道調査事務局打合せ（2003 3 .17）、銀山街道史跡指定に向けてのスケジュールなどについて県1市2町の検討会。
- ・ 街道調査現地指導・文化庁記念物課伊藤正義氏（沖泊・温泉津ルートを中心に）
- ・ 第3回街道調査検討会（2003 3 28）
鞆ヶ浦ルートについての調査報告と検討ほか。
- ・ 鞆ヶ浦ルートを中心とする現地踏査
10/10、11/17、11/27、12/1、12/4、12/5、12/7、12/14、12/20、12/23、1/11、1/13、1/18、1/20、2/17、3/6、3/13、3/19、3/26
- ・ 石見銀山街道中写真測量図化業務
鞆ヶ浦、沖泊・温泉津の両ルートについて、1/1,000の測量図の作成委託業務。

4 . 石造物調査及び関連事業の概要

(1) 悉皆調査の実施

- ・ 本年度は真言宗寺院に付属する墓地調査を目標に、昆布山谷の長楽寺を対象とした。同寺は明治前期まで存続し、境内地がよく残る。
- ・ 確認実測した石造物の総数は213点であり、年代的には文禄3（1594）年銘を最古とし、19世紀半ばまでのものを確認した。
- ・ 種別は宝篋印塔（一石・組合せ）、五輪塔（一石・組合せ）、無縫塔、墓標類（方柱・方形・その他）、石仏、要石などがある。

- ・およそ6地点に分布し、真言宗、浄土宗、浄土真宗、曹洞宗、日蓮宗の各宗派に属すると思われる墓標が混在することから、惣墓（共同墓地）として形成された可能性がある。

(2) 分布調査の実施

- ・5月下旬、本谷地区を踏査。浄国寺跡ほかで約110基の石造物を確認した。種別は宝篋印塔（一石・組合せ）、五輪塔（一石・組合せ）、無縫塔、角塔、石仏などがある。
- ・併せて、於紅ヶ谷・竹田両地区を再調査し、発掘調査成果との関連性を検討した。
- ・分布調査は銀山柵内をほぼ終了、今後大森地区に移行の予定。

(3) 関連調査の実施

- ・奉行・代官関係位牌調査 勝源寺
昨年度に悉皆調査を実施した石見銀山奉行・代官関係墓所に関連して、勝源寺および同所東照宮にある位牌の記録作成を行った。
- ・銀山地役人墓所の調査
奉行・代官墓所調査につづき、石見銀山支配の上で重要な役割を果たした地役人関係の墓所である西性寺裏墓地の宗岡家・河島家墓所を調査した。

(4) 平成14年度調査報告書の作成

- ・昨年度に実施した奉行・代官関係、安養寺、大安寺跡、大龍寺跡、熊谷家の各墓所調査と、勝源寺・東照宮などの関連資料をまとめ、「石見銀山石造物調査報告書3」を刊行。
- ・分布調査 本谷地区（2002.5.27～31）
- ・関連調査 益田市大龍寺ほか調査（2002.7.10）
- ・関連調査 位牌調査、勝源寺・東照宮（2002.7.30）
- ・悉皆調査 長楽寺跡、地役人河島家・宗岡家墓所 立正大学池上悟氏ほか（2002.8.25～9.1）
- ・羅漢寺石造五百羅漢像調査 調査者・宮本徳昭、阿部智子、田中玲子（2003.3）
左右両窟のうち右窟253体について計測・銘文等の記録作成、および写真撮影を行った。

5. 科学調査及び関連事業の概要

- ・科学調査部会の開催（2002.11.8、於石見銀山遺跡発掘調査事務所）
平成14年度の科学調査に関する検討。

- ・発掘調査資料等の科学的分析（非破壊）と解析作業
- ・資料の科学的分析委託（委託者・島根県教育委員会、委託先（株）コベルコ科研）
 - ①粒土分布測定（ふるい法、マイクロトラック法）～竹田地区土間・炉内土資料8点
 - ②X線解析～石銀藤田・栃畑谷・竹田・出土谷・於紅ヶ谷各地区の鉍滓資料43点
 - ③EPMA樹脂埋め～石銀・栃畑谷・竹田・於紅ヶ谷各地区の鉍滓資料15点
 - ④EPMA（点分析・カラーマッピング）
- ・竹田地区 NW 区 SX14採集の土資料10点の蛍光 X 線定性分析、定量分析の委託。委託者 島根県教育委員会、委託先（株）大館分析技術センター
- ・竹田地区 I 区 NW 区 SX14採集の土資料3点の定性・定量分析等の委託。委託者 大田市教育委員会、委託先・（株）大館分析技術センター
- ・出土遺物の保存処理

石見銀山遺跡からこれまでに出土した金属製品（青銅製品・鉄製品）の保存処理事業
分銅6、繭形錘2、和鏡片1、留金具1、青銅製鋏1、キセル3、引き金1、小柄1、鉄砲玉1、釣針1、鍋の足1の計19点の保存処理、および蛍光 X 線分析・X 線写真撮影。
事業主体 大田市教育委員会（国庫補助事業）、委託先 財団法人元興寺文化財研究所
- ・遺構の保存処理・記録方法
 - ①於紅ヶ谷地区の三次元測量

レーザースキャナによる三次元計測、平成14年度からの継続事業。委託先・（株）日立エン
ジニアリング
 - ②於紅ヶ谷地区の遺構保存処理（強化剤の含浸）

請負先・（株）アクト
 - ③出土資料のプレパラート作成 委託先・（株）京都地科学社
- ・その他の関連事業
 - ①宮ノ前地区の遺構剥ぎ取り

委託先・（株）千晃
 - ②竹田地区 I 区 NW 区 SX14（方形炉跡）の遺構剥ぎ取り

委託先・（株）千晃
 - ③宮ノ前地区における三次元デジタル計測による写真測量

委託先・（株）テクノシステム
 - ④竹田地区・於紅ヶ谷地区・出土谷地区における三次元デジタル計測による写真測量

委託先・（株）テクノシステム

6 . 間歩調査の概要

石見銀山遺跡地内の金生坑及び甘南備山坑の内部調査、内部測量、内部ビデオ撮影ほかの業務委託。委託先・同和工営（株）

II 石見銀山遺跡関連事業の概要

1 . 宮の前地区発掘調査（受託調査）

主要地方道仁摩瑞穂線改良工事に伴う宮の前地区の発掘調査、委託者は島根県大田土木建築事務所。平成11年度からの継続事業で、今年度調査を終了し、調査概報を刊行。

2 . 町並み保存地区の保存修理・整備活用事業

（1）重文旧熊谷家住宅保存活用

①重文旧熊谷家住宅保存活用検討委員会の開催

・検討経過と中間報告

第2回 平成14年5月10日	第3回 平成14年7月31日
第4回 平成14年8月26日	第5回 平成14年9月28日
第6回 平成14年10月29日	第7回 平成14年11月17日

（開催場所は市役所又は大田市町並み交流センター、第1回は13年度実施済）

・中間報告：平成14年11月18日

「石見銀山の歴史の中の熊谷家と町並みとくらしを踏まえて様々に活用する施設」（武家屋敷や町並み交流センターを含めた広義の位置づけ）と位置づけ、くらしと歴史の「保存」、子どもたちに伝えていく「教育」、文化財に親しむ「活用」、これらを市民の手ですすめることを基本とした活用計画の中間報告をまとめた。

②建造物調査の実施

・調査：（財）文化財建造物保存技術協会

重文旧熊谷家住宅保存修理工事設計監理事務所

寛政12年（1800）の町並み大火後の再建と推定される旧熊谷家住宅の変遷を約1年にわたって調査した。痕跡調査、古写真分析、間取り調査、類例調査、遺構確認調査などを解体工事と並行して実施した。遺構確認調査では古絵図（明治5年）に描かれた風呂場跡や台所跡、地下蔵などを確認した。調査結果から再建後も土蔵の新築や移築、台所や蔵前座敷の拡張など順次増改築をおこない、幕末に屋敷が最大規模となったことを確認した。

③家財調査の実施

・指導：小泉和子氏（重文旧熊谷家住宅保存活用検討委員、京都女子大教授）

6月から清掃、記録カード作成をスタッフ7名で開始した。搬出した家財をまず大まかに①記録を取り保存するもの、②記録を取らないが使うもの、③廃棄するものの3種類に分け、①の家財は清掃し、翌年3月末現在で3,268点のカードを作成した。作業にあわせて酒造、趣味、供膳、下着、宗教、衣類のテーマを設けてくらしの考察をおこなった。

（2）伝建地区保存修理事業の概要

今年度、地区内では住宅や社寺あわせて6件10棟の建物・土塀の修理を行った。また、新設の塀や石垣など2件の修景を実施した。

修理の内容は下記のとおり。

①中村康家主屋・土蔵修理

イ362（MiW 3） 鬼村良昭（建栄会鬼村工務店）

明治29年以前創建（棟札など）

宮ノ下、城上神社北東100メートルの銀山川沿いの民家。「明治29年9月27日造立 家主井上兼吉」の手板が存在していたが、どの建物を示すかなど創建年を特定することはできなかった。井上氏は財力があつたらしく、戦後の頃まで、宮ノ下谷筋の田畑のほとんどや川筋の建物のいくつかを所有していた。

発掘調査などで、後背の山すそから銀山川に向って、遅くとも江戸初期の段階からひな壇状に区割りした建物群が存在していたことが明らかになりつつある。

②野澤恒雄家主屋・土塀修理

ハ148-1（KoW 1） 田中博（田中建設）

江戸末期の創建（推定）

駒の足、銀山街道西側に位置する。地役人の福本家や野澤家の宅であり、門付土塀、前庭・中庭や上便所などを配している屋敷構えであることから武家住宅と考えていたが、修理にともなう部分解体の過程で3間の通り土間があったことがわかり、創建当初は商家的な意図をもって建てられた可能性もある。現在のところ、大森の町並みでは類例がない。

③稲荷社修理（城上神社境内）

イ1477（MiW15）（有）森下コンストラクター

嘉永5年（1852）再建（棟札）

今回の部分解体修理の際に発見された棟板と宮司の聞き取りから、境内地の東側、長屋橋の川向いの路頭石盤に鎮座していた稲荷社を再建したと推定される。大森の場合、稲荷社や金毘羅の合祀・合社はひんばんに行われている。

④宗)西本寺本堂修理

ホ209 (GiW15) (有)金田建築

由緒によると、「寛永8年(1631)熊谷宗右衛門の懇招により、浄土真宗西本坊が簸川郡高松村願楽寺より分離し当地に移転一宇創立、元治元年(1864)再建本堂一宇」とある。再建は焼失が原因で、その際は本熊谷家から当時300両強の寄附があったと言われている。今回の修理で屋根替えに伴って、本熊谷の寄進を示す墨書きのある野地板が発見された。

⑤川上勲家主屋修理

イ768 (KeW28) (有)渡辺真工務店

明治前期(推定)

大音寺橋のもと、銀山川東面の現市道大森線(旧国道)との間に造成した平坦地に立地する民家。板図は小屋裏から発見されたが創建年は不明。旧国道の開設以前から存在していたものと推定される。もともと納屋として独立した建物を主屋につなげている。昭和18年9月の大水害時に1メートルの浸水を受けたが倒壊・流出はしなかった。土壁には浸水時の跡が残っている。

⑥平井充子(旧山部)家主屋・離れ・納屋修理

ハ170-1 (KoE19) 鬼村良昭(建栄会鬼村工務店)

江戸末期から明治初期の創建(推定)

駒の足、銀山街道東側に建つ町屋。「明治43年改造入」と墨書された板が発見されたが、創建年は特定できない。武家・商家・町屋・長屋などが混在することは大森の特徴のひとつである。

今回の平井家の場合、無住の状態が長く続いていたため傷みは激しかったが、町屋の家構えが良好な形で残っており、所有者が敷地全体の保存修理に協力的であったことから、町屋の屋敷構えが保存修理できた最初の例となった。境界ぎりぎりまで使い押入れや床などを設けていること、採光上の明りとり部分が多いこと、中庭・坪庭を残すことなど現状をなるべく残す修理方針を立てた。町屋の風情が全面に残る修理となった。

3. 情報発信・整備活用事業(島根県関係)

(1) 情報発信事業

「世界遺産候補 石見銀山遺跡シンポジウム～世界遺産を語る～」の開催

開催日時 平成15年3月16日(日)13:00～16:00

開催場所 男女共同参画センター「あすてらす」

講演者 荒俣 宏(作家)「世界遺産の21世紀的役割と意義」

コーディネーター 引野道生(山陰中央新報社 報道部次長)

パネリスト 黛 卓郎(株式会社ブラック研究所 取締役・文化財担当)、我那覇念(沖縄県立総合教育センター主任指導主事)、荒俣 宏(作家)

その他 石見銀山遺跡探索ツアーをこのシンポに絡めて行った。日時は第1回が3月21日13時～16時、第2回が22日9時～12時、第3回が13時～16時である。コースは石銀藤田地

区～竹田地区～於紅ヶ谷地区～於紅ヶ谷間歩群～本谷露頭掘跡群～本間歩～釜屋間歩
～大久保間歩内部～金生坑～本谷口で、人数は各回20人ずつ参加した。

(2) サイン整備事業

- ・石見銀山遺跡及び周辺サイン等整備工事実施設計および監理業務の委託
- ・同請負工事の実施・大田市大森町地内における表示板(片面・両面)、指示板(1方向・2方向・3方向)の設置工など(p40位置図参照)

(3) 拠点施設検討部会の開催

石見銀山遺跡調査整備委員会拠点施設検討部会

第1回 9/6 拠点施設整備検討項目などの検討。

第2回 10/4 拠点施設の規模、既存関連施設の関係、設置箇所などの検討。

4. 情報発信事業(大田市外2町広域行政組合)

(1) 第1回石見銀山講座の開催

総合監修・石見銀山遺跡発掘調査委員会委員長田中琢(元奈良文化財研究所所長)参加者45名。

[第1日目] 8月19日(月)開校式 基調講演「戦国時代と石見銀山」講師:藤岡大拙(島根県立島根女子短期大学学長)交流会

[第2日目] 8月20日会場/町並み交流センター(大森町)

【講座1】「石見と佐渡」～日本における近世の鉱山史～講師:田中圭一(前群馬県立女子大学教授)、【講座2】「日本の地下資源」～貴金属と鉱山～講師:井澤英二(前九州大学教授)、【講座3】「製錬と精錬」～飛鳥池・長登から石見銀山まで～講師:小池伸彦(奈良文化財研究所主任研究官)【実技公開講座】灰吹法原理の実演(銀を溶かす)石見銀山資料館の見学。

【一般公開講座】「世界遺産とまちづくり」講師:西村幸夫(東京大学教授)会場は島根県立男女共同参画センター「あすてらす」(大田市内)。

[第3日目] 8月21日(水)【フィールドワーク】

《Aコース》仙ノ山 石銀地区 竹田地区 本谷地区 大久保間歩

《Bコース》龍源寺間歩 佐毘売山神社 出土谷地区 清水谷製錬所

【積出港の見学】石見銀山(大森町) 鞆ヶ浦(仁摩町) 沖泊(温泉津町)

[第4日目] 8月22日(木)【講座4】「近世金属生産遺跡の科学的調査」～石見銀山遺跡を中心に～講師:村上隆(奈良文化財研究所主任研究官)【実習】石見銀山遺跡出土遺物の科学的調査研究、【講座5】「戦国時代の考古学」～都市・湊、流通と消費～講師:小野正敏(国立歴史民俗博物館助教授)【講座のまとめ】

夜学1発掘・2石造物/大田市教委担当者、夜学3建築/大田市建築住宅課長 渡部孝幸

[第 5 日目] 8 月 23 日 (金) 閉講式

(2) シンポジウム “ ここまでわかった石見銀山 ” の開催

日時/平成15年2月11日(火)祝日、場所/大田商工会議所 3階ホール。参加者250名。

基調報告(10:00~12:00)発掘調査~遠藤浩巳・中田健一(大田市教育委員会)、文献調査~和田美幸(島根県教委世界遺産登録推進室)、科学調査~鳥越俊行(奈良文化財研究所客員研究員、石見銀山遺跡科学調査員)、石造物調査~鳥谷芳雄(島根県教委世界遺産登録推進室)

基調講演(13:15~14:15)藤岡大拙(島根県立島根女子短期大学学長)

パネルディスカッション(14:30~16:30)

コーディネーター:大国晴雄(大田市石見銀山課長)、パネリスト:勝部 昭(島根県教育委員会教育次長)、田中義昭(元島根大学教授、石見銀山遺跡調査整備委員会委員)、多田房明(温泉津小学校教諭、石見銀山遺跡街道調査員)

・島根ふるさとフェア2003 世界遺産候補「石見銀山」出展 1月18・19日。今年度の全体の入場者164,200人。

・NHK 番組「情報満開しまねっと」でシンポジウム告知 1月30日。場所はNHK 松江放送局、県立博物館目次謙一、大門、淵橋3名が出演。博物館のスポットコーナーの紹介も。

5 . その他の情報発信事業

島根県・ISTS(「宇宙技術および科学の国際シンポジウム」)特別企画講演会。6月1日(土) 9:30~16:30、於くにびきメッセ国際会議場。

主催・ISTS 組織委員会、島根県、島根県教育委員会、ISTS 松江市実行委員会ほか

記念講演「石見銀山と大航海時代」講師:脇田晴子(滋賀県立大学教授、文化審議会委員)

Ⅲ - 1 江戸時代初期の2通の書状について

和田 美幸

この度島根県が購入した2点の書状は、大久保石見守長安が支配を行っていた江戸時代初期のもので、宛名と内容からいずれも吉岡家文書（島根県指定文化財）の一部と思われる。吉岡家は毛利氏が銀山を支配していた16世紀末から江戸時代を通じて地役人を勤めた家で、史料は68点が指定にされており、その中に大久保長安関係の史料も十数点含まれている。この度購入した史料もその一部であるようだ。銀山の初期の史料が少ないなかでは、大変貴重な史料といえる。

この2点の書状は裏側にも文字が書かれているが、それぞれ表に書かれた内容が用済みとなった後に裏面を利用して帳面に仕立て直し、覚え書き帳として再利用したもののようだ。また糊と思われる汚れも残っており、帳面を解体した後に障子の下貼りなどに利用したと見られる。次にそれぞれの文書の内容を詳しく紹介したい。

①年未詳 9月26日 大久保長安書状

石見銀山の最盛期は17世紀初期と言われているが、その足がかりをつくったのが大久保石見守長安だった。長安は甲斐国出身で土木・建築・鉱山技術などに精通していることで徳川家康の家臣となり、江戸幕府成立の頃には中心となって働いた。家康は関ヶ原の戦い後全国の主要鉱山を直轄地とし、長安には当時の主要鉱山である石見・佐渡・伊豆の支配を任せた。

この書状は長安から今井宗玄・吉岡右近・宗岡弥右衛門という3名の人物に宛てた書状である。今井・宗岡・吉岡右近の父隼人（のち出雲と名乗る）は毛利氏が銀山の直轄支配をしていた時から役人である。吉岡隼人が長安に請われて佐渡へ赴いたのが慶長9年（1604）なので、右近宛てになっているという事からこの書状がそれ以降のものであることが分かる。また長安の花押はある年代を境に一部分が変わることが分かっているが⁽¹⁾、それを参考にするならば、慶長12年（1607）2月までの書状ということになる。

この書状の概略は「9月15日の（今井氏等から差し出された）書状を、26日に室（広島）にて拝見した。人馬のことについては先度伏見より（…欠損…）早々に尾道に寄越すように。」人馬が不足しているなら、尾道・高山（甲山）・三吉（三次）にて借りること。出雲赤名にて継ぎ立てること」「今度米売り値段違いにつき、増左近は佐和山へ、三源は美濃加納へ、作兵は伊勢桑名へお預けする。」という内容である。

この書状の前半部分に登場する室・尾道・甲山・三次・赤名という地名は、江戸時代の銀山街道（銀の輸送ルート）沿いに位置する。銀の輸送に関しては、長安の留守居が「御運上銀三百貫目山口おの道まで参候由切々目出度（めでたく）…」つまり運上銀300貫目が尾道まで到着したことを喜ぶ、と言っている一文⁽²⁾から慶長12、3年頃に大森 - 尾道ルートの利用が始まった言われているが⁽³⁾、人馬継立ての指示など具体的な指示を送っている書状はこれが初見である。この書状では尾道・甲山・三次で人馬を借り、赤名で「手をつき（継ぎ）」とあるが、これらの宿駅を利用した輸送はそのまま引き継がれ、江戸時代中後期の覚え書きにはそのルート、宿泊地、日数、人馬継ぎ立てについて詳しく書かれる史料が残っているが、江戸時代を通じて銀山街道として利用されていることが分かる。

後半部分の「増左近、三源、作兵」はそれぞれ増島左近・三枝源三・作兵衛のことと思われる、作兵衛については不明だが、「銀山旧記」によれば増島、三枝は天正15年、16年に銀山目付として石見に下向したとあり⁽⁴⁾、大久保長安支配下での銀山役人として勤めていた。年末詳9月24日大久保長安書状写⁽⁵⁾には、「子丑兩年御勘定出入」により「増嶋八佐和山へ御預、源蔵八濃州加納城へ御預、作兵衛八伊勢桑名へ被成御預候事」とあり、勘定についての不始末で処罰され、他所へ「お預け」になったことが記されている⁽⁶⁾。本史料では「米売り値段違い」によってお預けになったと記されており、銀山の支配に影響するため吉岡等に知らせたものと思われる。

②年末詳9月晦日 高野了喜書状

この書状は高野了喜という人物から、今井宗玄・宗岡弥右衛門・吉岡右近に宛てたもので、「9月28日付の書状を30日に高山（甲山）にて拝見した」とあるように、大森からの出張中に今井氏などから書状を受け取った、その返事である。

高野了喜に関する史料はこのほかに、文化年間に大田南畝が銀山の資料を集め採録した「石州銀山紀聞」⁽⁷⁾の中に写が一点ある。これは大久保長安が高野了喜に宛てた書状で年末詳9月8日のものであるが、内容は長安が江州（滋賀）柏原にいること、これから伏見（京都）に向かうこと、石見銀山の盛山を喜んでいること、などを伝えたものである。大久保長安は石見銀山の支配を行うにあたって、甲斐国などから連れてきた者を銀山附地役人として大量に雇っているが⁽⁸⁾、高野了喜もその一人であろう。高野という名はその後の分限帳などにも地役人として登場するので、子孫が江戸時代を通じて地役人を勤めていたことが分かる。長安の石見銀山支配においては、現地支配を行っている吉岡氏などの地役人との連絡を取りなしていたのだろう。

書状の内容は、意味がよく判明しない箇所もあるが、概略は「9月28日の書状を同月30日に高山（甲山）にて拝見した。駒勘山が陰り（間歩の採掘が陰りであるの意力？）のことについて、吉岡等3人のお気遣い尤もである。戸田藤左衛門（駿府の長安家臣）のご内証（内々の手紙力？）を渡すが、吉岡等3人が申されることは問題ないので、ご用伝達のため浜原（邑智町）までお迎えに出て頂きたい。爰元（長安の事力？）はご機嫌がよろしいので、安心して頂きたい。」というようなことが書かれている。「爰元御機嫌よく候」の「爰元」とは大久保長安を指すと思われる、長安と行動を共にしていたのではないかと思う。ちなみに駒勘とは駒沢勘左衛門と思われる、長安の下で銀山役人として働いていた者の名である。

さて、この書状の裏面には「吉出雲様の酒之通ひ」と題する覚え書きがある。これは吉岡隼人（出雲）の酒の「通い帳」と思われる。通い帳というのは、帳面に商品名や金額などを記しておき、後日にまとめて支払いする際の覚え書きとするものである。年代は未詳だが「未ノ二月九日 一大樽 壱ツ 此銀六匁五歩」などと書かれており、生活の一端が伺えるようで面白い。

以上簡単に史料を紹介したが、今後ほかの史料との比較検討によって、内容をさらに具体的に明らかにしたいと思う。（世界遺産登録推進室）

(1) 和泉清司編『江戸幕府代官頭文書集成』（文献出版1999）

(2) 川上家文書（『佐渡相川の歴史』資料集三 佐渡金山史料 相川町史編纂委員会 1973）

(3) 『温泉津町誌』中巻（温泉津町誌編纂委員会 1995）

- (4) 天正14年というのは慶長の誤りで、『寛永重修諸家譜』によれば慶長6年には石見国那賀郡に6千石を与えられている。
- (5) 『石見国銀山文書』内閣文庫
- (6) 小葉田淳『日本鉱山史の研究』(岩波書店 1968)、村上直「近世初期の石見銀山の支配と経営」(『徳川林政史研究所研究紀要』昭和53年度 1979)
- (7) 国立国会図書館所蔵
- (8) 仲野義文「石見銀山附地役人についての一考察」(『日本海地域史研究』第十四輯 1998)

史料の解読などについて仲野義文氏にご教示を頂いた。記して謝意を表したい。

① 釈文
大久保長安書状

覺
一 九月十五日之書付、於至廿六日、
披見候事
一 人馬之儀先度從伏見「」
早々尾道へ越可申事
一 廣嶋へ八不可候間、可有其心得候事
一 人馬不足候ハ、尾道高山三吉
三て八借可申候、いつも赤名三て
手をつき申候間、ちんを得候ても
越可申候事
一 今度米うりね段違_三付而、増左近八
佐和山、三源八美濃之香納、作兵八
伊勢桑名へ被成御預_ケ候事

以上
九月廿六日 石見守(花押)

今井宗玄
吉岡右近殿
(宗力)岡弥右衛門
上る

② 高野了喜書状

尚々各御伝衆
御宿之儀、大森_三
被仰付候哉、此方ヨリ
書立進之候、
届申候哉、御油断
有間敷候、以上

九月廿八日之御状
同世日_三於高山
拜見申候、駒勘山
陰之儀_三付候、
各西三人之儀
御氣遣尤之儀候、
乍去戸藤左衛門殿
御内証を規
被申候、御西三人申候
儀、不苦候間、
御用をも達濱原
までも御迎
御出候て可然存候、
爰元御機嫌
よく候間、可被御心安候、
巨細之段者、一両
日中_三委事候て
可申事候、
恐々謹言、

九月晦日 了喜(花押)
追而申候、定宿之御衆
其可存候、以上

今宗玄様
宗吉右様
吉右近様
御報

Ⅲ - 2 石見銀山遺跡出土の木製品と保存処理

遠藤 浩巳

はじめに

平成8年度から本格的な発掘調査が開始された石見銀山遺跡では、鉱山に関連する遺構と共に、多種多様で膨大な量の遺物が出土している。その内容は大半が陶磁器類であり、そのほかに金属製品・石製品・製錬関連遺物・木製品などがみられる。これらの遺物の保存保管の方法については石見銀山遺跡調査整備委員会の科学調査部会で検討がなされ、その指導のもとに金属製品・木製品について継続して保存処理を実施している。

木製品は水利施設や保水性のある溝跡や土坑内などの遺構から出土するのが通例であるが、稀なケースとして仙ノ山山頂近くの石銀藤田地区坑口前トレンチで検出された遺構面上から出土した例もある。これまでの木製品の保存処理方法については、高級アルコール含浸処理加工法を採用している。ここでは木製品の保存処理方法と樹種調査の概要を報告する。なお樹種調査は株式会社吉田生物研究所汐見真氏の報告を掲載するものである。

1. 木製品の高級アルコール法保存処理加工

(1) 特徴

脱水から含浸までの処理期間がPEG法に比べると約3分の1で仕上がり、高級アルコールの比重は0.816であり、ポリエチレングリコール(PEG)の1.212と比較すると約40%軽量である。また高級アルコールは非水溶性・非吸収性で、溶融点が58℃で、保管の際に常温では変質しないという特徴がある。また高級アルコールの分子量は270.55と小さく浸透性が高いため、変形・伸縮しにくく原形保持についても優位である。

(2) 処理加工の概要

①含浸事前処理

出土保管された木製品を50%メタノール溶液に浸漬し、木質部の水分を徐々にメタノールに置換させる。5～10日間後70%溶液槽に移しメタノール濃度を上げ、その後100%メタノール槽に移し、完全に脱水を行う。

②含浸

脱水された木製品を含浸用特殊ワックス「高級アルコール」に浸漬し、メタノールからワックスに置換する。100mmの角材の場合中心部まで完全に置換される日数は約60日、150mmの角材の場合は約90日を要する。

③加温含浸

ワックスを58℃に加温し、メタノールを蒸発させる。ワックスが含浸すると出土したときと同じ状態に固定される。

④表面処理

表面の色調を原形に合わせ洗浄し、色調濃度を整える。

2. 樹種調査結果

(1) 試料

試料は大田市石見銀山遺跡から出土した容器5点、服飾具11点、食事具2点、紡績具1点の合計19点である。

(2) 観察方法

剃刀で木口(横断面)、柾目(放射断面)、板目(接線断面)の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

(3) 結果

樹種同定結果(針葉樹3種、広葉樹7点)の表を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

①スギ科スギ属スギ(*Cryptomeria japonica* D.Don)

(遺物 No.16)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に1~3個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

②ヒノキ科アスナロ属(*Thujopsis* sp.)

(遺物 No.2,3,4,5,6,1,6,2,8,1,12,3,15,1,15,2,18,19)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で1分野に2~4個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ(ヒバ、アテ)とヒノキアスナロ(ヒバ)があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

③ヒノキ科クロベ属クロベ(*Thuja standishii* Carr.)

(遺物 No.1)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部に偏って接線状に存在する。柾目では放射組織の分野壁孔はスギ型で1分野に2~6個ある。放射柔細胞の水平壁が接線壁と接する際に水平壁は山形に厚くなり、接線壁との間に溝のような構造(インデンチャー)ができ、よく発達しているのが認められる。板目では放射組織は全て単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。クロベは本州、四国に分布する。

④クルミ科ノグelm属ノグelm(*Platycarya strobilacea* Sieb. et Zucc.)

(遺物 No.11)

環孔材である。木口では大道管(~150 μ m)が1~4列で孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、斜線状ないし火炎状に複合している。軸方向柔細胞は周囲状および2~3列の短接線状である。柾目では大道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。内腔にはチロースが詰まる。放射組織は平伏細胞と方形細胞からなり異性である。道

管放射組織間壁孔はやや大型のレンズ状ないしスリット状である。板目では放射組織は1～6細胞列、高さ～1mm以上である。ノグルミは本州（東海道以西）、四国、九州に分布する。

⑤ブナ科クリ属クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)

(遺物 No 6-3 8-2)

環孔材である。木口では円形ないし楕円形で大体単独の大道管（～500 μ m）が年輪にそって幅のかなり広い孔圏部を形成している。孔圏外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは2～3個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり（ストランド）、軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する。

⑥ニレ科ケヤキ属ケヤキ (*Zelkova serrata* Makino)

(遺物 No 2-2 3,7,9)

環孔材である。木口ではおおむね円形で単独の大道管（～270 μ m）が1列で孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、多角形の小道管が多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集団管孔を形成している。軸方向柔細胞は孔圏部では道管を鞘状に取り囲み、さらに接線方向に連続している（イニシアル柔組織）。放射組織は1～数列で多数の筋として見られる。柾目では大道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織は平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなり異性である。方形細胞はしばしば大型のものがある。板目では放射組織は少数の1～3列のものと大部分を占める6～7細胞列のほぼ大きさの様な紡錘形放射組織がある。紡錘形放射組織の上下端の細胞は、他の部分に比べ大型である。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。

⑦クワ科クワ属 (*Morus* sp.)

(遺物 No 2-1)

環孔材である。木口では大道管（～280 μ m）が年輪界にそって1～5列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では小道管が2～6個、斜線状ないし接線状、集合状に不規則に複合して散在している。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。小道管には螺旋肥厚もある。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管内には充填物（チロース）が見られる。板目では放射組織は1～6細胞列、高さ～1.1mmからなる。単列放射組織はあまり見られない。クワ属はヤマゲワ、ケグワ、マグワなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

⑧ツゲ科ツゲ属ツゲ (*Buxus microphylla* S. et Z. var *japonica* Rehd. et Wils.)

(遺物 No .17)

散孔材である。木口では極めて小さい道管（～40 μ m）が多数平等に分布する。木繊維は厚壁である。柾目では道管は階段穿孔（10本前後）を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔には小型の篩状の壁孔がある。板目では放射組織は2～3細胞列、高さ～600 μ mからなる。ツゲは本州（関東以西）、四国、九州に分布する。

⑨トチノキ科トチノキ属トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume)

(遺物 No .12-1 ,12-2 ,13 ,14)

散孔材である。木口ではやや小さい道管（～80 μ m）が単独かあるいは2～4個放射方向に接

する複合管孔を構成する。道管の大きさ、分布数ともに年輪中央部で大きく年輪界付近ではやや小さくなる傾向がある。軸方向柔細胞は1～3細胞の幅で年輪の一番外側（ターミナル状）に配列する。柾目では道管は単穿孔と側壁に交互壁孔、螺旋肥厚を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔は六角形をした比較的大きな壁孔が密に詰まって篩状になっている（上下縁辺の1～2列の柔細胞に限られる）。板目では放射組織は単列で大半が高さ～300μmとなっている。それらは比較的大きさが揃って階層状に規則正しく配列しており、肉眼では微細な縞模様（リップルマーク）として見られる。トチノキは北海道、本州、四国、九州に分布する。

⑩ウコギ科ハリギリ属ハリギリ (*Kalopanax septemlobus* Koidz.)

(遺物 No.10)

環孔材である。木口ではほぼ単独の大道管（～350μm）が孔圏部を形成している。孔圏外では小道管が集団状、波状、帯状に複合して分布している。柾目では道管は単穿孔を有し、内部には充填物（チロース）がつまっている。

放射組織は平伏細胞からなる同性と平伏、直立細胞からなる異性とがある。板目では放射組織は1～5細胞列、高さ～1.6mmからなる。ハリギリは北海道、本州、四国、九州に分布する。

参考文献

島地 謙・伊東隆夫 「日本の遺跡出土木製品総覧」 雄山閣出版（1988）

島地 謙・伊東隆夫 「図説木材組織」 地球社（1982）

伊東隆夫 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」 京都大学木質科学研究所（1999）

北村四郎・村田 源 「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」 保育社（1979）

深澤和三 「樹体の解剖」 海青社（1997）

使用顕微鏡

Nikon

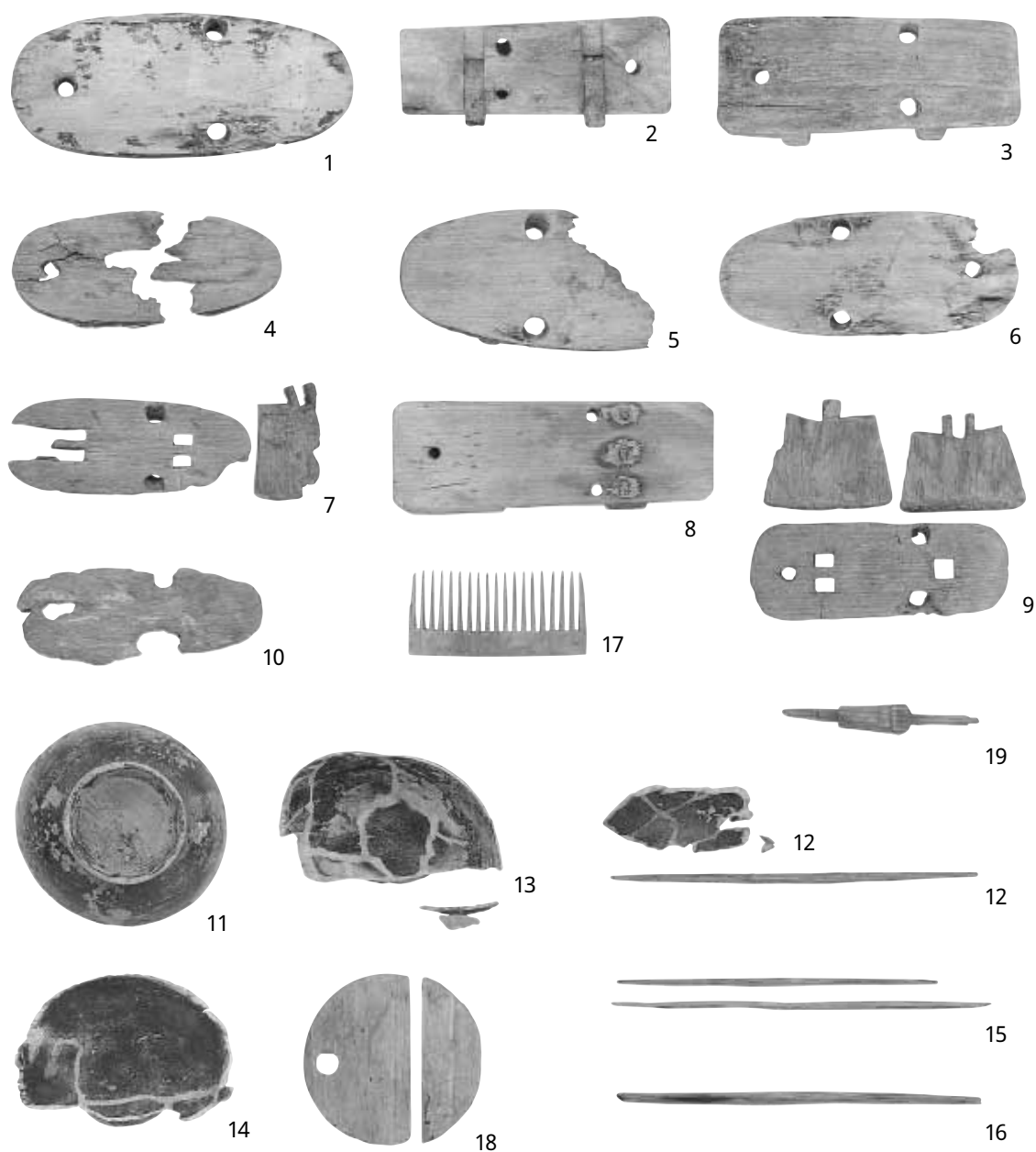
MICROFLEX UFX-DX Type 115

大田市石見銀山遺跡出土木製品同定表

No.	品名	樹種
1	下駄1	ヒノキ科クロベ属クロベ
2-1	下駄2 台	クワ科クワ属
2-2	歯	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
2-3	栓	ヒノキ科アスナロ属
3	下駄3	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
4	下駄4	ヒノキ科アスナロ属
5	下駄5	ヒノキ科アスナロ属
6-1	下駄6 本体	ヒノキ科アスナロ属
6-2	栓	ヒノキ科アスナロ属
6-3	棒	ブナ科クリ属クリ
7	下駄7	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
8-1	下駄8	ヒノキ科アスナロ属
8-2	棒	ブナ科クリ属クリ
9	下駄9	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
10	下駄小	ウコギ科ハリギリ属ハリギリ
11	漆塗椀1	クルミ科ノグルミ属ノグルミ
12-1	漆塗椀2	トチノキ科トチノキ属トチノキ
12-2	盤	トチノキ科トチノキ属トチノキ
12-3	箸	ヒノキ科アスナロ属
13	漆塗椀3	トチノキ科トチノキ属トチノキ
14	漆塗椀4	トチノキ科トチノキ属トチノキ
15-1	箸1 長	ヒノキ科アスナロ属
15-2	箸1 短	ヒノキ科アスナロ属
16	箸2	スギ科スギ属スギ
17	横櫛	ツゲ科ツゲ属ツゲ
18	曲物(底)	ヒノキ科アスナロ属
19	部材(糸車)	ヒノキ科アスナロ属

おわりに

木製品をはじめ出土遺物の保存科学的な処理は、保存保管のために、また今後の資料展示など遺跡の活用面でも重要な作業である。また木製品の樹種調査は生産の諸相を知る基礎的な調査であり今後も資料の蓄積が必要とされる。最後になるが本報告をおこなうにあたりご協力いただいた株式会社吉田生物研究所にお礼申し上げる次第である。(大田市教育委員会)



石見銀山遺跡出土木製品（平成13年度保存処理）

Ⅲ - 3 温泉津町西田地区採集の蹄鉄について

鳥谷 芳雄

はじめに

この蹄鉄は温泉津町西田地区に住む内田知之さんが、昭和40（1965）年頃に発見し採集したものである。発見場所は同地区の、上市から降路坂に向かう谷筋の中程辺りで、途中にある田圃（いまでも耕作が続けられている）を100メートルほど過ぎた小川の右上、山芋を掘っている最中に崩落土から1点が出土したという⁽¹⁾。この谷筋は字名を「五老坂」といい、銀山山内の坂根口から降路坂を越え、西田を経て清水、松山を通り、やがて沖泊・温泉津に至る、銀山街道「沖泊・温泉津ルート」の途中に位置する⁽²⁾。

1. 蹄鉄の概要と特色

前方に折り返しのつく蹄鉄である。鉄製で左右に5個ずつ、計10個の釘穴をもち、そのうち一つに角釘を残す。内面は平坦であるが、外面には左右に溝を有し、その端部は丸みをもつ。丸味は使用による摩耗の痕跡と考えられる。前後の最大長は8.9cm（内法6.8cm）、幅は左右で最大8.3cm（4.9cm）、後方先端では4.9cm（3.0cm）、身の幅は前方先端で1.4cm、中央では1.8cm、後方先端では右が1.3cm、同左が1.5cm、厚さは平均で5mmある。溝は幅が最大で5mm、長さは右が6.9cm、左が6.6cm、深さは最大で2.5mmである。折り返しは幅が2.4cm、高さは1.0cmである。釘は角釘で、長さ2.5cmで頂部の幅は6.5mm×5mmである。

馬具等の資料が豊富に所蔵されている（財）馬事文化財団「馬の博物館」によると、小型蹄鉄の平均的サイズは12～13cm大とみられている。この数値と比較すると本蹄鉄はさらに小さいことが分かり、また、それらの資料と比べると薄手で釘穴が少なく、溝が深いなどの特徴が認められる⁽³⁾。

2. 蹄鉄の歴史と石見銀山の牛馬

蹄鉄は主に馬の蹄を保護するための道具である。日本における装蹄の歴史は江戸時代、18世紀前半代の徳川吉宗のころの記録に始まるというが、装蹄文化として根付くのは明治以降とされている。装蹄馬と鉱山との関係を見ると、近代における九州や北海道などの炭坑では、坑内作業に小型の馬が利用されていたといい、馬は近代鉱山労働と深く関わっていたとみられている⁽⁴⁾。

ところで、石見銀山の歴史の中で牛も含め、馬との関連が知れる資料を二、三挙げてみると、江戸後期の作である「石見銀山絵巻」⁽⁵⁾には、上巻の「銀吹炭附送ル図」（牛）「御代官様銀山見廻り之図」（馬）「様銀掛改ル図」（牛）「銀山市中之図」（牛・馬）下巻の「灰吹致ス節相用候渡木貫目改之図」（牛）「灰吹銀併銀鏈銅御銀蔵より差立之図」（牛・馬）といった場面で、牛馬の使用の様子を確認することができる⁽⁶⁾。

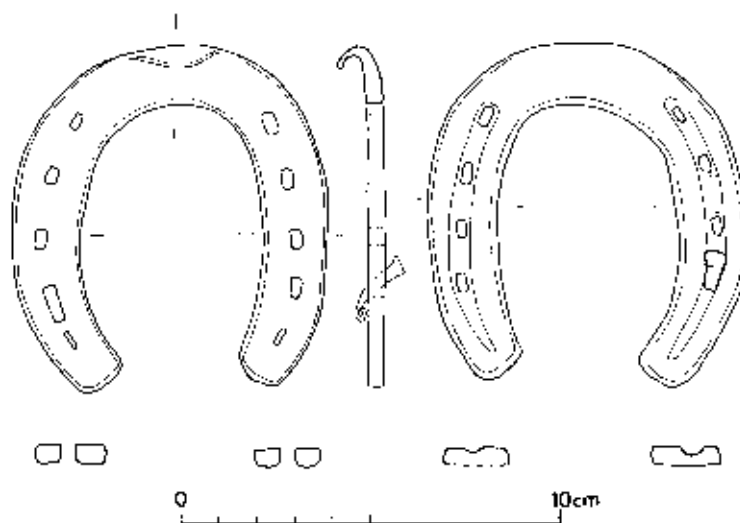
また、採集地付近の降路坂については、正保2年（1645）の記のある「石見国絵図」⁽⁷⁾の記事が参考になる。そこには柵之内沿いの口屋の一つである「坂根口」番所から、降路坂を越えて「西田

村」に向けて朱線（道筋）が引かれたうえで、途中に「がうろ坂難所十九町、坂冬八牛馬往還難成候」と注記されている。

さらに、近代については、石見銀山（大森鉱山）とは距離を置くものの、島根県の西部、津和野の畑ヶ迫（笹ヶ谷）鉱山の例が挙げられる。そこでは坑内で行われる巻き上げ作業に馬が利用されていたと考えられる絵画資料があり注目される⁽⁸⁾。同鉱山は近世、石見銀山附御料のうちの「銀山五ヶ村」の一つに数えられていた。

3. 降路坂付近の道路遺構

降路坂は、先に取り上げた資料から冬場は牛馬が通れないほどの険しい坂道であったことがうかがえる。この道筋は現在中国自然歩道として整備されているが、五老橋から降路坂の峠に向かって現地を実際に踏査してみると、設定されたコースとは別に、石垣を伴った道路遺構が谷筋（先見谷川筋）の両サイドによく遺存しているのが分かる⁽⁹⁾。2間近くある幅員、落積みに似た比較的目地の通った石垣、ジグザグに設定された緩い勾配などからすると、近代の所産と推定され、馬車道として整備されたとも考えられる遺構である。これが正しい理解であるとすれば、本蹄鉄もあるいは



西田地区採集蹄鉄実測図（S = 1 : 2）



同上写真（左：内面、中央：外面、右：X線撮影）

これに関連した何らかの遺物と言えるかも知れない。

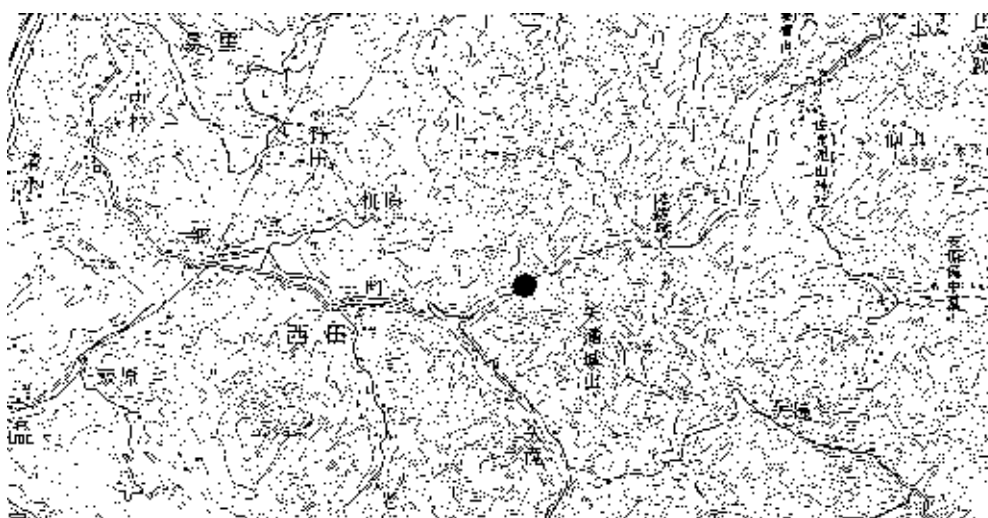
おわりに

この蹄鉄は近代のものともみられ、それもかなり小型の馬に装着されていたと考えられる。偶然の発見とはいえ、本蹄鉄が銀山街道沿いで採集されたことを考えれば、今後石見銀山とその周辺地域の歴史の中で、牛も含め馬がどのような役割を果たしていたのか、とりわけ近代の鉱山経営や物資の輸送手段としての牛馬の利用等に関わる問題を考えるうえで、興味深い資料と言ってよいであろう。

なお、この資料紹介に当たって、末崎真澄、安田増憲、山根正巳、和田美幸、大門克典、重田聡、淵橋洋祐、今田善寿、池橋達雄の各氏から多くの御教示、御協力をいただいた。末筆ながらここに記して謝意を表します。(世界遺産登録推進室)



正保2年石見国絵図(部分、津和野町教育委員会所蔵)
右方が降路坂付近の描写



蹄鉄の採集地点位置図(S = 1 : 50,000)

注

- (1) 温泉津町長安田増憲氏の情報提供による。
- (2) この「沖泊・温泉津ルート」は、同じく銀山から仁摩町友に向かう「鞆ヶ浦ルート」とともに、平成14年度から15年度にかけて2カ年間街道調査が行われている。
- (3) 末崎真澄(財)馬事文化財団「馬の博物館」学芸部長のご教示による。筆者は2001年10月18日に当館を訪れ、末崎氏の御案内により実物資料や資料カードを拝見させていただいた。同氏からはさらにこの蹄鉄が、ポニーの中でもより小さい馬に装着されていたと見られ、日本の在来種よりも小さな外国産の馬ではないかとのこと指摘も頂いた。
- (4) 注(3)に同じく、末崎真澄氏の御教示による。
- (5) 上野家文書、島根県指定文化財。
- (6) 因みに、石見銀山と牛馬との関わりがうかがえる、より古い史料には戦国期、弘治2年(1556)の「志道広良言上状」(「毛利家文書」『大日本古文書』)に「上下商人共銀山出入之駒之足」とある。また、江戸幕府成立直前のころであれば、慶長5年(1600)11月18日付けの「石見国銀山諸役請納書写」(吉岡家文書)にみえる「銀山谷中駄賃役」「中通銀山近辺駄賃役」「西田ヨリ銀山迄駄賃役」「佐波ヨリ銀山迄駄賃役」「大田ヨリ銀山迄駄賃役」がある。
- (7) 津和野町教育委員会所蔵、島根県指定文化財。
- (8) 和田美幸氏のご教示による。津和野町堀家の近代絵画資料中にあるとうかがった。
- (9) 今年度末、沖泊・温泉津ルートの街道調査を進めるなかで大門克典、重田聡、淵橋洋祐、今田善寿、池橋達雄の各氏らとともに確認した。なお、この遺構の性格等については今後とも検討される必要がある。

IV 報告書・出版物情報（2002 4～2003 3、補遺）

1. 調査報告書・記録集

- ・「石見銀山史料解題 銀山旧記」(島根県教育委員会、2003 3)
- ・「石見銀山 石見銀山遺跡発掘調査概要13 於紅ヶ谷・竹田・出土谷地区」(島根県・大田市両教育委員会、2003 3)
- ・「石見銀山 石見銀山遺跡石造物調査報告書3 安養寺・大龍寺跡・大安寺跡・奉行代官墓所外」(島根県・大田市両教育委員会、2003 3)
- ・「石見銀山遺跡調査ノート」Vol 2 (島根県・大田市・温泉津町・仁摩町教育委員会、2003 3)
平成14年度石見銀山遺跡総合調査および関連事業の動向ほか
- ・「石見銀山遺跡総合調査概報」3 (島根県・大田市・温泉津町・仁摩町教育委員会、2003 3)
- ・「町並みと銀山 遺構確認調査概報1」(大田市埋蔵文化財調査報告書第28集、大田市教育委員会、2003 3)
平成10～14年度にかけて行われた、重要文化財旧熊谷家住宅、県指定史跡阿部家住宅、電線類地中化城上神社前、本谷遊歩道整備関連に伴う、4件の遺構確認調査の概要報告を所収。
- ・「主要地方道仁摩瑞穂線（門谷工区）改良工事に伴う石見銀山遺跡発掘調査 - 宮の前地区調査概報 - 」(大田市埋蔵文化財調査報告書第29集、大田市教育委員会、2003 3)
- ・石見銀山歴史文献調査団編『石見銀山 研究論文篇、年表・編年史料綱目編』(思文閣出版、2003 .1)
- ・「大田市大森銀山伝統的建造物群保存地区保存事業概報 No 56～65」(大田市教育委員会、2003 3)
56田中家住宅、57金森家住宅、58山本家住宅、59室田家納屋、60岡家住宅（土蔵・主屋）、61安養寺本堂、62川上家住宅、63新井家住宅（主屋・土蔵）、64安井家住宅、65吉岡家住宅（旧胡谷）
- ・「町内遺跡（石見銀山遺跡）詳細分布調査報告書Ⅱ」(仁摩町教育委員会、2003 3)
柑子谷地区の遺跡詳細分布調査の結果と聞き取り調査、古写真（24点）、施設配置図を載せる。
- ・「石見銀山遺跡ニュース」(島根県・大田市・温泉津町・仁摩町教育委員会)
第3号（2002 5 .10）
発信・石見銀山から石見銀山へ 出番を待つ村方の資史料 田中圭一

発信・石見銀山課の発信 連携と協働をめざして 大國晴雄

「石見銀山遺跡」国史跡指定拡大なる！

鏝絵の魅力① 大森町西性寺 渡部孝幸

石見銀山遺跡が分かりやすく！～立体模型や説明板の設置～

銀山で狂言の鑑賞会～石見銀山体験シンポジウム 大門克典

町並みを歩く(3)～修理の現場から～ 西村崇司

温泉津町から・恵比須神社社殿、県指定文化財になる！ 友村光男

平成13年度調査活動日誌抄(下半期)

資料紹介④上野家(下博多屋)近代資料について 岩屋さおり

資料紹介⑤旧大森村覚法寺の梵鐘 鳥谷芳雄

平成14年度石見銀山関連事業の概要(鳥根県関係)

第4号(2002.11.1)

街道調査はじまる - 銀・人・物の往来を支える道 - 藤岡大拙

街道調査(1)民俗調査 多田房明 (2)文献調査 佐伯徳哉 (3)建造物調査 浅川滋男

(4)石造物調査 宮本徳昭

総合調査から(1)遺跡発掘調査 中田健一 (2)古文書・文献調査 佐伯徳哉 (3)石造

物調査 池上悟

第1回石見銀山講座 大門克典 鏝絵の魅力② 渡部孝幸

町並みを歩く(4)～修理の現場から～西村崇司 「石見銀山遺跡」の魅力 福代光秀

資料紹介⑥大久保石見守長安の書状 和田美幸 文部科学委員会視察(福代)

石見銀山遺跡調査活動日誌抄

2. 個別論文・資料紹介・関連報告

・土谷紘子「徳川政権の成立と金銀山 - 鉱山間における移動と交流から - 」『弘前大学国史研究』第113号、2002.10

・仲野義文「石見銀山奉行代官と鉱山政策」『石見銀山遺跡石造物調査報告書3』2003.3所収

・鳥谷芳雄「国絵図の中の石見銀山・領内表現」『古代文化研究第11号』(鳥根県古代文化センター、2003.3)

・和田美幸「江戸時代初期の2通の書状について」『石見銀山遺跡調査ノート2』2003.3所収

・遠藤浩巳「石見銀山遺跡出土の木製品と保存処理」同上所収

・鳥谷芳雄「温泉津町西田地区採集の蹄鉄」同上所収

- ・ 細見啓三編 『島根県有形文化財物部神社本殿保存修理報告』(宗教法人物部神社、2003 3)
- ・ 井澤英二「石見銀山と世界遺産」『日本鉱業史研究』No 44(巻頭言、日本鉱業史研究会、2002 9)
- ・ 池上 悟「近世墓石の諸相」『立正大学人文科学研究所年報』第40号 (立正大学、2003 3)
 近世墓石の様相を全国的視野で捉えようとした論考。そのなかで平成11・12年度に取り組み
 た妙正寺墓地・龍昌寺墓地の調査成果をもとに、当地域で確認された17世紀前半までの地域的
 特徴を保持した墓石が、その後全国的な趨勢に変質していく様相を明らかにするとともに、そ
 れを基本としながら近世墓標展開の様相を全国各地の資料から検討した。
- ・ 寺井 毅「矢滝城跡の枳形虎口について」『季刊文化財』第104号(島根県文化財愛護協会、2003 3)
- ・ 鳥谷芳雄「大田市羅漢寺の中央脇窟の石造物」同上所収。
- ・ 斎藤本恭・上林章造・三浦啓作・鎌田直治編著 『佐渡金銀山 - 間歩分布調査・寺社調査報告書
 - 』(新潟県佐渡郡相川町教育委員会、2003 3 28)
 相川金銀山遺跡は、江戸時代の慶長 6 年(1601)から明治・大正・昭和、さらに平成元年(1989)
 まで長期間に及んだ鉱山遺跡。この歴史過程を遺跡・遺物の実態に即して、より詳細に調査す
 ることを目的にした調査報告書で、具体的には金銀山遺跡としての特性を把握し、かつ、その
 保存と活用が急がれるところから、間歩の現況と寺社(廃寺を含む)について調査しまとめた
 もの。
 間歩の分布調査では、間歩(坑道)、露頭採掘跡、施設 跡等256カ所を確認し、測量を行って
 位置座標を地図に掲載。また、寺社調査では、文献史料などを参考にしながら、現地踏査を行
 い、現存・廃寺・所在不明・不確実寺合わせて147カ寺と神社を調べ、1 / 5000地形図上に掲載。
- ・ 「石見銀山遺跡 - 2001 ~ 2002ユネスコ世界遺産ニュース国内編」『ユネスコ世界遺産年報2003』
 No 8 (社団法人日本ユネスコ協会連盟、2002 .11 25)

(補遺)

- ・ 藤原茂「伊能忠敬の島根県内測量行」等 『島根県歴史の道調査報告書別冊 歴史の道調査報告書
 補遺版』(島根県教育委員会、2000 3)
- ・ 下條信行他編著 『しまなみ水軍浪漫のみち文化財調査報告書 - 埋蔵文化財編 - 』(愛媛県教育委
 員会、2002 3)
 岩礁ピット等が残る愛媛県越智郡上浦町甘崎城跡、今治市来島城跡の調査報告と、これに関連
 した石見鼻ぐり岩調査の報告など。

3 . 広報誌・雑誌等

- ・「発掘銀山 - 石見銀山発掘調査だより - 」(石見銀山遺跡発掘調査事務所)
第14号(6月)、第15号(9月)、第16号(1月)

- ・「銀の風」(広報誌)(大田市大森町並み交流センター)
23号(5月)、24号(6月)、25号(8月)、26号(10月)、27号(12月)、28号(1月)、29号(3月)

- ・「銀山街道」(広報誌)(大田市外2町広域行政組合)

- ・「世界に輝け石見銀山 第3部」(読売新聞石見出雲版2002.2.6より35回連載、12.11終了)
 - 第1回 初のレーザー計測～「孫右衛門の光だ」～(鳥谷芳雄)
 - 第2回 「鉱業都市」だった傍証～鉄砲金具「用心金」が出土～(今岡司郎)
 - 第3回 16世紀後半に築造か～方形炉発見に驚き～(守岡正司)
 - 第4回 シンボや写真展開催～素晴らしさアピール～(福代光秀)
 - 第5回 鉱業技術発祥の物証～「灰吹銀」発見に大興奮～(鳥越俊行)
 - 第6回 金属加工の工房跡も～浮かび上がった「大森町」の姿～(遠藤浩巳)
 - 第7回 製錬の変遷知る遺物～不純物除く「三石鍊」出土～(坂根健悦)
 - 第8回 採掘の痕跡示す岩盤～確認された間歩530か所～(中田健一)
 - 第9回 慶応3年に400人～意外に多い女性人口～(松岡美幸)
 - 第10回 体制確立と人員配置必要～あせりは禁物科学調査～(村上隆)
 - 第11回 「現場通して文書検証」～温泉氏の足跡たどる～(田中圭一)
 - 第12回 幕府への運上は一部～生産担った民間経営～(仲野義文)
 - 第13回 総合調査の可能性～技術レベル伝える「ゆりかす」～(村上隆)
 - 第14回 備中のベンガラ連想～「灰吹法」巧みな技術～(高田潤)
 - 第15回 官民、連携と協働で～未来引き継ぎへ奮闘～(大国晴雄)
 - 第16回 新展開生む文献調査～元就らの書状発見～(佐伯徳哉)
 - 第17回 山師の一種の財産に～「間歩」民間資本で開発～(仲野義文)
 - 第18回 ゲーテ絶賛「新時代の息吹」～珠玉の書「デ・レ・メタリカ」～(中村俊郎)
 - 第19回 独自の高水準補強策～技術書にない「石留之図」～(仲野義文)
 - 第20回 史跡拡大・整備に道筋～80年代に総合整備計画～(卜部吉博)
 - 第21回 奇縁で働きかけ実る～大森の町並み「重伝建」に～(卜部吉博)
 - 第22回 困難極めた石銀山～関連の遺跡分布を調査～(卜部吉博)
 - 第23回 道路脇で“偶然”発見～石銀山で宝篋印塔調査～(卜部吉博)
 - 第24回 優れた価値広くPR～世界遺産視野に行政連携～(勝部昭)
 - 第25回 誇れる科学調査報告～カラミで鉱山技術探る～(村上隆)
 - 第26回 にぎやかになった町～明治に郵便局、銀行～(岩屋さおり)
 - 第27回 学生に出雲学キャンプ～育てよう「銀の卵」たち～(影山邦人)

- 第28回 各地から多くの学生～研究者育成へ講座始める～（大門克典）
- 第29回 時かけ身体で感じて～歴史400年たどれる遺跡～（西山彰）
- 第30回 世界遺産登録を受け～悩む開発か保存か～（福田敏）
- 第31回 同時代に同様の営み～「銀」の存在で街出現～（福田敏）
- 第32回 過酷だった労働実態～負の遺産後世に伝える～（福田敏）
- 第33回 科学調査に成果期待～先進地・佐渡と研究交流～（松本岩雄）
- 第34回 技術の科学調査強化を～自然との対話術理解～（井澤英二）
- 第35回 総合調査体制強化を～大量の情報まだ眠る～（村上隆）

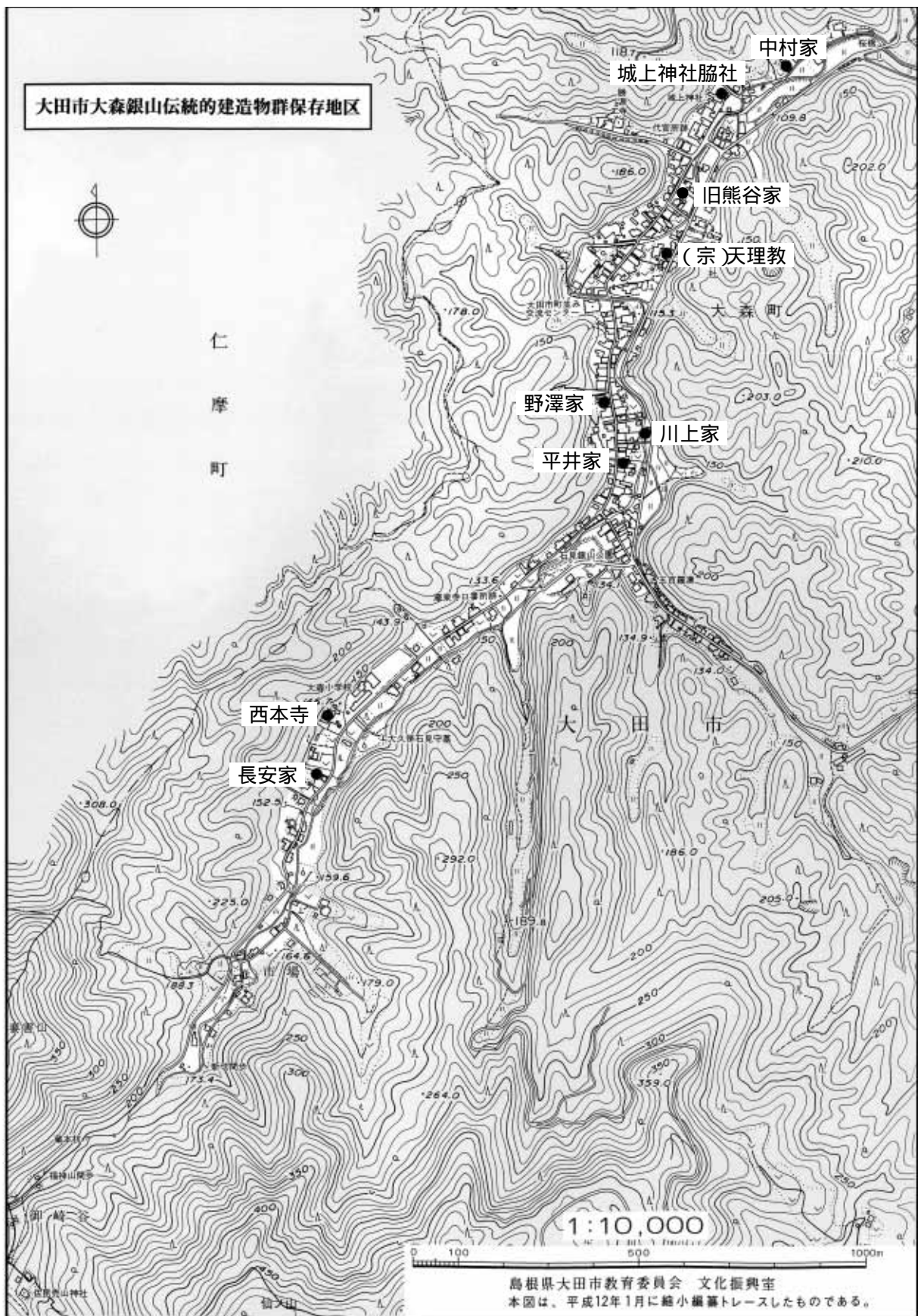
- ・佐伯徳哉「世界文化遺産をめざす石見銀山」『四季報 No. 48 鴨東通信』（思文閣出版、2002 .12）
- ・和田美幸「大久保長安と銀山街道 古文書にもドラマあり」『古代文化ノート』（山陰中央新報記事、2003 .1 .16）
- ・仲野義文「輝き甦る石見銀山」『週刊朝日ビジュアルシリーズ日本遺産』第15号（朝日新聞社、2003 2）
- ・鳥谷芳雄「山頂鉦山集落の殷賑 - 総合調査の進む石見銀山遺跡」『建築雑誌』Vol .118、No .1501（日本建築学会、2003 3）
- ・大崎雪枝『それぼっちり物語 - 石見銀山昔話伝説集』（再版2003 .1、初版1976 3 20）
石見銀山にまつわる伝説・昔話31編を収録する。
- ・大場志郎『銀山探訪歌巡り - 大森・銀山両地区エリアからシルバーロードへの旅 - 』（2002 .12 31）
- ・平澤毅「日本における世界文化遺産の登録推薦に関する近年の動向」『ランドスケープ・プロジェクト・ナウ』（日本造園学会、第66巻第2号2002 .11 .15）
- ・「座談会 アジア建築遺産の保存修復と技術協力」『建築雑誌』Vol .117、No .1500（日本建築学会、2003 2）

（補遺）

- ・林泰州「やりたいことをやってみよう - 大森銀山町並み保存地区」『日本ナショナルトラスト報』No. 392（財団法人日本ナショナルトラスト、2002 3 .1）
- ・林泰州「大森銀山伝統的建造物群保存地区」『住民のボランティア活動等を活かした歴史的文化的資源の保存活用と地域活性化に関する調査』（文化庁文化財部建造物課、2002 3）

4 . 催し物

- ・ スポットコーナー「石見銀山の輝き」、於島根県立博物館、2003 .1 21 ~ 3 23
第5回博物館ゼミナール「石見銀山の輝き」、講師・目次謙一(県立博物館学芸員) 2003 2 22
- ・ 公開シンポジウム「ここまでわかった石見銀山 - 世界遺産登録をめざして - 」、於大田商工会館、
2003 2 .11 (広域行政組合事業参照)
- ・ 「世界遺産候補 石見銀山遺跡シンポジウム「世界遺産を語る」、於県立男女共同参画センター
あすてらす、2003 3 .16 (島根県事業参照)
- ・ 研究集会「古代の銀と銀銭」於奈良文化財研究所、2003 3 8 ~ 9
発表・中田健一「石見銀山の採掘・製錬法」
- ・ 引野道生「石見銀山遺跡を取り巻く課題と世界遺産登録を目指す戦略」(大田商工会議所講演会、
2002 .12 9)



VI - 2 平成14年度石見銀山遺跡調査関連箇所位置図 (p10重伝建事業関係)

